

たくさんミニー

本上功大

登場人物 智子（ともこ・女・彩香の親友）

彩香（あやか・女・智子の親友）

陸人（りくと・男・自称恋愛カウンセラー）

彩夏の部屋。真ん中にテーブル。彩香と智子は隣り合って座っており、その向かいに陸人が一人で座っている。

彩香 絶対に別れた方が幸せだって。

智子 絶対なんて、どうして言い切れるの。

陸人 いや、そうやって別れを繰り返していると、同じような恋愛しかできなくなってしまう。

智子 ちゃんと向き合いますよ、私は。

彩香 もう遅いつて。ずっとこんな恋愛ばかりしてるんだよ。

陸人 今までもずっと恋人のいる人とお付き合いを？

智子 まあ、はい。

彩香 そんなの絶対に幸せじゃないよ。

智子 だから、どうして幸せじゃないって言い切るの。

彩香 今までも悩んで苦しんでたの見てきたし、今彼できてからも楽しそうな話なんか聞いたことないよ。

陸人 悩むことは悪いことじゃないよ。そうすること
で彼を想い、大切ななにかに気づくはずですよ。

彩香 じゃあ彼氏といて、なにか気づいたことあった。

智子 一緒にいると幸せ感じるの。

彩香 単純、安っぽい。

智子 単純かもしれないけど、幸せ感じる時なんて他にある？私にはこれしかない。

陸人 それは智子さんにとっては幸せなんですよね。

智子 すごく幸せです。私の作った塩むすびを、あんなに美味しそうに食べてくれる人なんて、彼しかないの。

陸人 見てこの幸せそうな笑顔。いい顔してます。

彩香 そんなに幸せなら、いっそのこと奪っちゃえばいいのに。結婚してるわけでもないんだし。

智子 彼の今の幸せを壊したくない。

彩香 もう壊れてるって、彼女との幸せは。壊したくないのは自分の幸せでしょ。

陸人 彼女は彩香さんでもありますよ。

彩香 りっくんはトモの味方なの？

陸人 ミニーの気持ちもわかるよ。けど誰の味方をしているわけでもなく、彩香さんにとっての幸せを考えているんです。

彩香 彼女のいない、普通の人と付き合うほうが幸せだって。

陸人 人には人それぞれの幸せの形が、愛の形があるはずですよ。

智子 私は彼のこと、信じてる。だからこれからも塩むすびを作り続けるの。

陸人 その想いは必ず伝わります。これからもずっと、想いをこめて塩むすびを作り続けてください。

智子 はい。

陸人 だからミニーも、壊れているかもしれない愛の形を新たに創造していく二人を見守ろう。

彩香 そうだね。トモがそれだけ彼のこと、信じてるんだったら。

智子 ありがとうございます。

陸人 すみませんが、私はこれで。

智子 ありがとうございます。アヤの彼氏だからって、こんな話聞いてもらって。

陸人 いえいえ、これが私の仕事でもありますし。でも、どうしても辛くなった時は、無理をせずに神に祈りましょう。（両手を挙げ、くるくる回り始める）

智子 え？

陸人 またなにかあったら連絡ください。（智子に名刺を差し出す）今回は特別に料金はいりませんので。

彩香 料金？

陸人 ミニーごめんね。また女性と二人でご飯なんて。

彩香 仕方ないよ、仕事なんだから。がんばって。今日のミニーにもよろしくね。

智子 ミニー？

陸人 ありがとう。また連絡するよ。（部屋を出る。）

智子 え、なにあの人。なに最後のあれ。

彩香 りっくんすごいんだよ。恋愛カウンセラーで年間三百六十五人の悩みを解決してるんだから。

智子 信じていいの、あの人。

彩香 私は信じてる。誰がなんと言おうと。

智子 そっか。一緒だ、私と。

彩香 よかった、私だけじゃなくて。

智子 そのうちね、信じてることが幸せになって、相手は誰でもよくなるよ。

彩香 そうかな。

智子 そうだよ。これ、経験談だから。

彩香 そっか。それは確かに信じられるね。

智子と綾香、微笑みあう。

終わり